

悠遊たより 心遊たより

第208号 発行 新居浜生涯学習大学

令和元年 〒792-0023

新居浜市繁本町8-65

電話・FAX(0897) 33-2991

E-Mail:n-daigaku@city.niihama.lg.jp



新居浜生涯学習大学の情報は・・・

<http://www.city.niihama.lg.jp/> (新居浜市役所ホームページからアクセス)

<http://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/n-daigaku/> (新居浜生涯学習大学へ直接)

生涯学習推進員・スタッフ研修会報告

～市民の、市民による、市民のための

生涯学習大学を目指して～

今年度2回目の研修会が7月8日に生涯学習センター研修室で開催されました。私たちの生涯学習大学が平成3年6月に開設され、来年には開校30年の節目を迎えます。

今回の研修会では「平成」から「令和」へと時代が移り、生涯学習の方向性が変化している中で、生涯学習大学がより発展していくには何が必要なのかを、これまで企画運営に関わってきた職員や講師そしてスタッフを交え、ワークショップ形式で対話を深めました。



私達の生涯学習大学が産声上げた平成の初頭は、まさに生涯学習が全国に展開された時期と重なります。「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる環境を整備することを目指して、これまでの公民館を中心とした社会教育の枠を越えた、高度化、専門化した市民の学習に応えようと、松山大学や愛媛大学との連携のもと、市民スタッフが企画運営を担う、「市民の、市民による、市民のための」民主的な運営を目指す市民大学として高く評価されてきました。

今から30年前を思い出してみてください。消費税3%が導入されたのは平成元年でしたが、まだ右肩上がりの経済状況の中で、特に余暇をいかに充実させるかという観点が特に強調され、カルチャーセンター的な活動に多くの民間企業も参入する時代でした。また同時に、青春期に戦争に駆り出され、学ぶことを奪われた世代が、ちょうど退職を迎える時期でもありました。松山大学公開講座や日本文学講座は人気を博し、200名を超える受講生を集めることもあり、教室は最前列から埋まっていく状況だったことを思い出します。

あれから30年の時が過ぎ、今、生涯学習大学に求められる役割は大きく変わってきました。国の中央教育審議会では、人口減少社会における社会教育の在り方について見直しを行い、人生百年時代と云われる中で、学ぶことの意義を再確認し、「開かれ、つながる社会教育」、「学びと活動の好循環を生み出す」をキーワードに、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に取り組んでいこうという方向性を打ち出しました。

これまでも、急激な社会構造の変化を踏まえ、柔軟に適応してきたのが社会教育、生涯学習でした。令和の新時代にふさわしい新しい生涯学習大学に生まれ変わることが、私たちの生涯学習大学をさらに発展させていくために必要であり、「脱皮できない蛇は滅びる」というニーチェの言葉もあるように、今だからこそ、新しい時代に向けて、変えるべきことは変え、変えてはならないものは守り、それを推進員やスタッフのみなさんと対話の中でじっくりと見極めていきたいと考え、未来に向けて議論できる場をつくりました。しかし、本当は受講生のみなさん方、さらには生涯学習大学を受講していない市民の方も交え、様々な立場の意見を聞き、新しい時代の生涯学習大学を創っていくべきだと考えています。

今回のワークショップはまさに最初の一步です。ここで話し合われた内容を皆さんに投げかけさせていただき、色々な意見を伺いながら、次年度に向けて計画を練り上げていきたいと思っています。

この記事をご覧になられて意見のある方は、どんな意見でも結構です、どしどし生涯学習センターにご意見をお寄せください。心よりお待ちしております。



5つのグループで話し合っただとめた今後に向けての改善策は次の通りです。

ワークショップのテーマ

《 開設30周年を迎えようとしている私たちの生涯学習大学が
今後ますます発展していくために取り組んでいったらいいと思う
3つの策を考えてみましょう。 》

グループA

1. すべての世代が参加できる生涯学習大学にしていきましょう。
2. アンテナを高く掲げ、情報や人脈を生かしましょう。
3. 学んだことを、地域のために活かしましょう。

グループB

1. 事務局と推進員・スタッフのコミュニケーションを密にしてほしい。
2. 講座内容の充実に努める。(回数・期間・内容)
3. スタッフの学びの場、憩いの場を設ける。

グループC

1. 従来のやり方にこだわらず、講座企画や修業のつどいの目的の共通認識を図る。
2. いろいろな世代の人に来てもらうために募集の周知を徹底し、休日夜間の開催や託児を可能にするなどの措置を考える。
3. 前期、後期の募集を可能にし、応募の機会を増やす。
4. 受講生同士の交流の機会を設ける。

グループD

1. テーマをやさしくし、新しい受講生が受けたいと思えるように工夫する。
2. 事務局と受講生、スタッフのつながりを強くする。
3. 講座等の企画の方法を考え直す。最後まで関わりを存続できるようにしてほしい。

グループE

1. 受講生同士のつながりを深める工夫をしていく。(名札、講座後の会話の促進)
2. いろいろな関係者の人脈を活かす(新居浜市で頑張っている人の講座を後半の空いた時期にスポット的に入れてみる。)
3. 受講生の意識を的確に把握した改善を図っていく。(一般受講生は活動の還元までの意識はないのではないか)

前頁で報告していない意見の中にも興味深いものが沢山ありました。きっと受講生のみなさんも日頃感じていることがあると思います。みんなの意見が集まるとそれぞれの価値観が違うので、時に意見の衝突が起きるかもしれません。でもそれこそが社会教育ですよね。お互いが認め合い、多様性を受け容れ、みんなが納得できる新しいやり方を創っていただければいいと思います。これからが話し合い本番です。私も一緒になって生涯学習大学を創っていきたいという気持ちをお持ちのあなた、ぜひ仲間に加わっていただければと願っています。

「市民の、市民による、市民のための生涯学習大学」その実現の主人公はあなたです。
生涯学習大学長 関 福生

～新規メンバーの募集～

1. 生涯学習大学開設30周年記念誌編集委員
2. 生涯学習大学推進員・スタッフ

※お問い合わせは生涯学習センターまで ☎ 0897(33)2991

9月カレンダー



…予定のご確認を…

日	曜	講座名	内容(テーマ)	会場	開始時間
3	火	草木染B①	藍の乾燥葉染め	ウ(料理実習室)	13:00
4	水	科学博物館講座⑤	海岸漂着ゴミについて	科(研修室)	10:00
		雑談しま専科④	生涯自分の足で歩こう	振(第5研修室)	10:00
6	木	シニアライフ④ 終	人生に5Kあり	セ(研修室)	10:00
7	土	松山大学公開講座⑥	憲法学からみた現代社会の諸問題	セ(研修室)	14:00
10	火	ふるさとの歴史あれこれ③	太鼓台の起源と変遷	セ(研修室)	10:00
11	水	懐かしの心の唄講座⑥	思い出の歌をうたいましょう	文(中ホール)	10:00
12	木	健康アラカルト③	太極拳に挑戦	ふ(多目的アリーナ)	14:00
14	土	日本文学講座⑦	異本で読む平家物語	文(視聴覚教室)	14:00
18	水	新居浜環境講座④ 終 聴	新居浜市の“環境”を大解剖!!	セ(研修室)	10:00
24	火	遍路学事始め⑤ 終 聴	私のへんろ	文(視聴覚教室)	10:00
25	水	懐かしの心の唄講座⑦	思い出の歌をうたいましょう	文(中ホール)	10:00
		別子銅山と四国の鉱山④ 終	四国の鉱山跡探訪②	セ(研修室)	14:00
28	土	松山大学公開講座⑦ 終	社会学の視点からみるイマドキ…	セ(研修室)	14:00
聴…聴講可 終…最終回 こんなときには必ず事前連絡を! * 欠席する時 * 聴講希望の時 連絡先…生涯学習センター ☎33-2991			セ…生涯学習センター 高…新居浜高専 文…文化センター ふ…ふれあいプラザ 振…文化振興会館 ウ…ウイメンズプラザ 科…科学博物館		

【日程変更のお知らせ】 新居浜高専市民講座⑥ 9月14日 ➡ 10月12日
新居浜高専市民講座⑧ 10月26日 ➡ 11月16日